

徳島大学国際センター教員（講師又は助教） 公募要領

徳島大学国際センターは、本学の国際交流推進の拠点であり、幅広い視野と国際感覚を備えた世界の人々と協働できる実践的人材を育成するため、海外の大学との交流を推進し、日本人学生に対するグローバル教育や海外留学の支援、外国人留学生に対する修学・学生支援や日本語・日本文化教育等を実施します。

今回、下記要領により教員を公募いたします。

記

1. 所属組織等 徳島大学国際センター
2. 採用予定時期 2027 年 4 月 1 日
3. 募集人員 講師又は助教 1 名
4. 任 期 採用日より 5 年間
※審査の上、再任可。ただし、再任後は任期を定めません。
5. 求める能力及び業務内容
 - (1) 多様な日本語レベルの外国人留学生等に対する日本語・日本文化の授業を担当する。
 - (2) 必要に応じて、日本語教育のコースデザインとカリキュラム、学生ニーズに合わせた教材（オンラインでの使用を含む）を作成し、適切な日本語教育体系を構築、実施する。
 - (3) 海外学術交流協定校の学生を対象にしたサマープログラム、外国人留学生と日本人学生との交流活動等、大学全体のグローバル化に資する行事の企画や運営に意欲的に取り組む。
 - (4) その他、国際センターが実施を必要とする業務を担当する。
6. 応募資格
 - (1) 博士又は修士の学位を有する者、あるいは同等の知識、経験を持つ者。
 - (2) 日本語・日本文化教育について、知識及び適切な経験を有する者。
 - (3) 外国人留学生に対する教育、学修・生活支援及び相談対応を適切に行うことができる者。
 - (4) 以下のいずれかの条件を有する、あるいはその意欲がある者（応募に際して望ましい条件）。
 - ① 日本語・日本文化教育のコースデザイン、カリキュラム、教材作成について、知識及び経験を有する者。
 - ② 異文化理解、国際理解、多文化共生又はこれに関連する分野の教育・研究経験を有する者。
 - ③ 外国人留学生の生活・学修支援、国際交流関連の業務、日本人学生の海外留学支援の業務の実務経験がある者。
 - ④ 日本語が話せない学生と意思疎通ができる程度の外国語運用能力を有する者。
 - (5) 国際関係業務に強い関心があり、組織の中で円滑にコミュニケーションができる者。
 - (6) 大学の改革に高い意欲を持ち、柔軟に対応できる者。
7. 給与等
年俸制（国立大学法人徳島大学年俸制適用職員給与規則による）

8. 勤務時間

1 日 7 時間 45 分（原則、始業（8:30）～終業（17:15））、週 38 時間 45 分勤務としますが、専門業務型裁量労働制に同意した際には、所定の勤務日に勤務した場合 1 日 7 時間 45 分勤務したものとみなします。

9. 勤務地

国立大学法人徳島大学 国際センター

（徳島市南常三島町 1 丁目 1 番地 徳島大学常三島キャンパス 地域創生・国際交流会館 4 階）

※業務の都合により、徳島大学蔵本キャンパスにおいて勤務する場合があります。

10. 選考方法

- (1) 書類審査
- (2) 講演会（講演、模擬授業、質疑応答）※書類審査合格者に対して行います。
- (3) 面接 ※書類審査合格者に対して行います。

11. 提出書類

- (1) 教員選考申請書（履歴書：写真貼付）（様式 1）
- (2) 研究業績書（様式 2）
- (3) 主要論文等別刷り 2 点（コピー可）
- (4) 教育業績書（担当してきた授業科目等）（様式 3）
- (5) 社会活動業績書（日本語教育、海外留学支援、国際交流、国際関係業務等の実績）（様式 4）
- (6) 外部資金の獲得状況（様式 5）
- (7) 応募動機及び着任後の抱負（様式任意 2000 字以内。内容を補完する写真や図を添付してもよい）
- (8) 応募者について参考意見を伺える方 2 名の氏名・所属・連絡先・電子メールアドレスを明記した書類（様式任意）

12. 応募締切 2026 年 9 月 30 日（水）

13. 応募方法

郵送又は Web による応募を受け付けます。

【郵送による応募】

封筒に「国際センター教員（日本語）応募書類在中」と朱書きし、応募書類一式をすべて PDF 形式で電子媒体（CD-ROM 又は USB メモリ）に保存したものを、簡易書留で下記宛てに郵送してください。

提出書類(1)については印刷のうえ、自筆署名したものをスキャンして、PDF ファイルに変換してください。

なお、提出された電子媒体（記録されている応募書類を含む）は返却しませんのでご了承ください。

〒770-8502 徳島県徳島市南常三島町 1 丁目 1 番地

徳島大学地域創生・国際交流会館 4 階

徳島大学学務部国際課国際企画係

【Web による応募】

・提出書類を 1 つの PDF ファイルにまとめ、そのファイル名を「TUIO_name.pdf」としてください。

- ・提出書類(1)については印刷のうえ、自筆署名したものをスキャンして、PDF ファイルに変換してください。
- ・(3)の主要論文等別刷り 2 点は、論文ごとに 1 つの PDF ファイルにしてください。
- ・上記「TUIO_name.pdf」と各論文の PDF ファイルを圧縮 (Zip 形式) して 1 つのファイルにまとめ、JREC-IN Portal サイトから Web 応募してください。

- ・JREC-IN Portal サイトからの具体的な応募方法については下記 Web ページを参照してください。

https://jrecin.jst.go.jp/html/app/seek/manuals/jrec-in-portal_user_manual_ja.pdf

1 4. 照会先

(1) 勤務内容等について

徳島大学国際センター 副センター長・教授 橋本 智

E-mail hashimoto@tokushima-u.ac.jp

Tel : 088-656-9873

(2) 給与や勤務条件について

徳島大学総務部人事課人事係

E-mail jnjin1k@tokushima-u.ac.jp

Tel : 088-656-8601

1 5. 徳島大学国際センターにおける業務の詳細については、以下のホームページを参照してください。

徳島大学国際センター

<http://www.isc.tokushima-u.ac.jp/>

1 6. その他

- (1) 徳島大学の教員選考においては、国籍、性別、年齢及びハンディキャップ等による差別を排除し、真に優秀な人材を採用すべく公平な選考を行います。
- (2) 徳島大学は、様々な取組により男女共同参画社会を推進しており、教員公募においても女性研究者の積極的な応募を歓迎します。
- (3) 提供していただいた個人情報、採用者の選考及び採用後の人事等の手続きを行う目的で利用するものであり、この目的以外で利用又は提供することはありません。
- (4) 面接及び講演を行っていただく際の旅費は、自己負担となります。

(様式1)

写真貼付

教 員 選 考 申 請 書

- ふりがな ○○○○ ○○○○
1. 氏名 (署名) ○ ○ ○ ○ ※氏名 (署名) は自筆で記入すること。
2. 生年月日 西暦○○年○○月○○日 (○○歳) ※採用発令予定日現在
3. 現 職 ○○大学○○学部 (○○講座) 助教
4. 応募を希望する職名 講師 ・ 助教
5. 所属機関住所 〒○○○-○○○○
○○県○○市○○○○○○○ 1-2-3
(電話) () -
6. 現 住 所 〒○○○-○○○○
○○県○○市○○○○○○○ 1-2-3
(電話) () -
(携帯電話) () -
7. メールアドレス ○○○○@○○○.○○.ac.jp
8. 連 絡 先 自宅 ・ 勤務先
9. 学 歴 西暦○○年○○月 ○○大学○○学部卒業
西暦○○年○○月 ○○大学大学院○○学研究科 (修士課程) 修了
西暦○○年○○月 ○○大学大学院○○学研究科 (博士課程) 修了
10. 学 位 西暦○○年○○月 博士 (○○) (○○大学甲○第○○○号)
11. 資 格 ○○○○ 西暦○○年○○月○○日 (第○○○号)
12. 職 歴 西暦○○年○○月 ○○日本語学校 非常勤講師
西暦○○年○○月 ○○大学講師○○学部 助教
(現在に至る)
13. 賞 罰 西暦○○年○○月 ○○学会奨励賞
14. 所属学会等 日本○○学会 (評議員), 日本△△学会 (評議員)
(役員名、委員名) 外国の学会 (原文表示)
15. 外国出張等 西暦○○年○○月～○○年○○月
(留学・研修含) 米国○○University (visiting Professor)

(様式2)

研 究 業 績 書

No.	著書、学術論文、研究発表等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要

(様式3)

教 育 業 績 書

担当してきた授業科目等（日本語、国際交流、異文化理解等）とその内容及び期間

実施機関名等	担当授業科目名	授 業 等 の 内 容	期 間

(様式4)

社 会 活 動 業 績 書

日本語教育、海外留学支援、国際交流、国際関係業務等の実績

活動等実績	年 月 日	概 要

(様式5)

外部資金の獲得状況

資金制度・研究費名	配分機関等名	研究課題名（研究代表者氏名）	代表・分担の別 期間全体の研究費総額	期 間

教員選考申請書等記入要領

□ 全般的事項

- 1 申請書の様式に従って作成すること。
- 2 外国語は、必ず活字体で記載すること。
- 3 年月日はすべて西暦で記載すること。

□ 教員選考申請書（様式1）

- 1 氏名（署名）は自筆で記入すること。
- 2 年齢は、採用発令予定日現在の満年齢を記入すること。
- 3 応募を希望する職名は、講師または助教のうち、希望する職名に○を付すこと。
- 4 メールアドレスは、選考の過程においての諸連絡に使用するので正しく記入すること。
- 5 「連絡先」は、自宅、勤務先のいずれかに○を付すこと。
- 6 「学歴」について
大学若しくは高等専門学校又はこれらと同等以上と認められる学歴を有する者は、それらの学歴をすべて記入し、その他の者は、最終学歴について記入すること。
＜例＞ 西暦〇〇年〇〇月 〇〇大学〇〇学部卒業
西暦〇〇年〇〇月 〇〇大学大学院〇〇学研究科（修士課程）修了
西暦〇〇年〇〇月 〇〇大学大学院〇〇学研究科（博士課程）修了
- 7 「資格」は参考となる資格及び語学能力を記入すること。
- 8 「職歴」について
(1) 職歴のすべてについて記入すること。なお、現職については必ず「現在に至る」と記入すること。
(2) 研究者としての外国留学、研究生、聴講生、副手等も記入すること。
- 9 「所属学会等」について
(1) 本人の専攻、研究分野等に関連した事項についてのみ記入すること。
(2) 大学の教員の場合、所属する大学の委員を除き、審議会等の主たる委員会の委員について記入すること。
- 10 「外国出張等」は、期間が2ヶ月以上の外国出張、留学等について記載すること。また、出張先等、当時の身分は原語で記載すること。

□ 研究業績書（様式2）

研究業績は、「著書」、「学術論文」及び「その他の業績」に区別し、該当小見出しを記入するとともに、その区分ごとに年代順に記入すること。

また、査読が行われた論文については、論文表題の後に「（査読あり）」と記載すること。さらに、代表的な業績5編には論文番号を○で囲み、そのうち特に重要な論文等の別刷り、2編を提出すること。

なお、学会誌等に発表予定の研究業績については、その旨の証明書を添付のこと。ただし、投稿予定のものは含まない。

1 「著書、学術論文、研究発表等の名称」について

(1) 「著書」

二人以上で執筆した場合も、担当執筆頁数の多少にかかわらず記入すること。その際、担当執筆部分は単独名による場合であっても「共著」として扱い、「名称」欄には、本の表題を記入し、担当執筆部分の名称は「概要」欄に記入すること。

なお、その本がシリーズものの一部である場合はシリーズ名、当該巻数を付記のこと。

(2) 「学術論文」

論文集、学術雑誌、学会機関誌、研究報告、紀要等に「学術論文」として発表したものののみ記入すること。

学位論文が単行本として刊行されているものでも「著書」の区分には入れず、「学術論文」の区分に入れ、当該論文の名称の下段に(博士論文)又は(修士論文)と記入すること。

(3) 「その他の業績」

ア 「学会発表」

学会におけるシンポジウム発表、一般演題発表（口頭及びポスター）等を記入すること。

イ 「翻訳」

「翻訳」した作品等について記載してください。

ウ 「制作等」

映像、芸術作品等制作したものについて記載すること。

エ 「日本語教育教材」

書籍或いはインターネット上で公開しているものについて記載すること。

オ 上記以外の業績

その他、業績等で有用と思われるものがあれば記入すること。

2 「単著、共著の別」について

区分ごとに下記のとおり記入すること。

(1) 「著書」及び「学術論文」

「単著」又は「共著」のいずれかとする。

(2) 「学会発表」

「単独」又は「共同」のいずれかとする。

(3) 「翻訳」

「単独訳」又は「共訳」のいずれかとする。

(4) 「制作等」及び上記以外の業績

「単著」、「単独」、「共著」、「共同」のいずれかとする。

3 「発行又は発表の年月」について

(1) 次のように記入すること。

＜例＞ 平成 30 年 8 月の場合 2018.8

(2) 学位論文については、大学から学位を授与された年月および学位記番号を記入すること。

4 「発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称」について

(1) 「学術論文(学位論文を除く)」及び学術雑誌等に発表された「翻訳」の場合は、当該発表雑誌等の誌名のほか、巻・号まで記入すること。

(2) 学位論文については、学位を授与された大学名および学位記番号を記入すること。

(3) 「学会発表」の場合は、学会大会名及び開催都市名を次のように記入すること。

＜例＞ ○○学会、○○回大会（於 徳島）

5 「概要」について

研究業績ごとにそれぞれ 200 字以内で簡潔に記入し、末尾に著書、論文集等の総頁数（学術論文等の場合は掲載部分の頁数）を記入すること。

なお、共著の場合は、本人の氏名を含め共著者全員の氏名（著者名が多数にわたり、主な著者数名を記入し以下を省略する場合は、その員数と、掲載されている順番を○番目と記載）、本人の担当部分を記入（本人の担当部分が明確にできないときは、その理由を、例えば「共同研究につき本人担当部分抽出不可能」等記入）すること。

□ 教育業績書（様式 3）

教育業績は、「担当してきた授業科目等」を「日本語、国際交流、異文化理解」等に区別して記載すること。参考となる資料等がある場合は、添付してもよい。この場合、「概要」を記載し、書誌事項の前に「（参考資料添付）」と朱書きすること。教育業績に記載の事項は、研究業績書、及び社会活動業績書に記載の事項と重複しないように留意すること。

□ 社会活動業績書（様式 4）

社会活動業績は、「日本語教育、海外留学支援、国際交流、国際関係業務」等の実績に区別して記載すること。参考となる資料等がある場合は、添付してもよい。この場合、「概要」を記載し、書誌事項の前に「（参考資料添付）」と朱書きすること。社会活動業績に記載の事項は、研究業績書、及び教育業績書に記載の事項と重複しないように留意すること。

□ 外部資金の獲得状況（様式 5）

1 「資金制度・研究費名」は、研究費の名称を記入すること。

2 「研究課題名（研究代表者氏名）」は、研究課題名を記入すること。なお、研究分担者で参画している場合は、（ ）書きで当該研究課題の研究代表者等の氏名を記入すること。

3 「代表・分担の別、期間全体の研究費の総額」は、当該研究者の役割が研究代表者の場合は「代表」と、研究分担者の場合は「分担」と記入すること。

また、期間全体の研究費の総額については、本人が受け入れ自ら使用する研究費の直接経費の総額を記入すること。なお、研究分担者の場合は、本人が受け入れ自ら使用する分担金の総額を記入すること。

(記入例)

研 究 業 績 書					
No.	著書、学術論文、研究 発表等の名称	単著、 共 著 の 別	発 行 又 は 発 表 の 年 月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
著書					
1	○○○○○○○○○○	単著	年代順に記 載	○○○○○○○○○○	※業績毎に200字以内で概要を記入 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ 総頁数250
2	○○○○○○○○○○	共著		○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ 共同執筆者（本人含む）○○○ ○○○ 総頁数714、担当部分P175～P196
学術論文					
1	○○○○○○○○○○	単著		○○○○○○○○○○ 第○巻第○号	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ P1～P50
2	○○○○○○○○○○ (査読あり)	共著		○○○○○○○○○○ 第○巻第○号	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○ 共同研究者（本人含む）○○○ ○○○ P9～P17
その他					
ア 学会発表					
1	○○○○○○○○○○	単独		○○学会第○回大会 (於 ○○)	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
2	○○○○○○○○○○	共同		○○学会第○回大会 (於 ○○)	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ 共同発表者（本人含む）○○○ ○○○
イ 翻訳					
1	○○○○○○○○○○	単 独 訳		○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
2	○○○○○○○○○○	共訳		○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ 共同翻訳者（本人含む）○○○ ○○○
ウ 制作					
1	○○○○○○○○○○	○○		○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
2	○○○○○○○○○○	○○		○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
エ 日本語教育教材					
1	○○○○○○○○○○	○○		○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
オ その他					
1	○○○○○○○○○○	○○		○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

(記入例)

教 育 業 績 書

担当してきた授業科目等（日本語、国際交流、異文化理解等）とその内容及び期間

実施機関名等	担当授業科目名	授 業 等 の 内 容	期 間
〇〇大学〇〇センター	TA	大学で日本語を履修している留学生に対する会話練習（教員からの指示を受けて）	〇年〇月〇日～ 〇年〇月〇日
〇〇日本語学校	日本語初級	日本語未習者（中国、ベトナム人）に対する授業。初級前半。週15時間の1日（3時間）担当	〇年〇月〇日～ 〇年〇月〇日
〇〇専門学校（韓国）	上級	日本へ留学する学生を対象にした上級クラス（読解クラス担当）	〇年〇月〇日～ 〇年〇月〇日
〇〇大学〇〇学部	異文化コミュニケーション	一年生を対象にした、異文化理解・多文化共生に関する理論と実践の授業	〇年〇月〇日～ 〇年〇月〇日

(記入例)

社 会 活 動 業 績 書

日本語教育、海外留学支援、国際交流、国際関係業務等の実績

活動等実績	年 月 日	概 要
〇〇大学 国際交流サークル	〇年〇月〇日～ 〇年〇月〇日	外国人留学生と日本人学生の交流を図るためのイベント企画と運営（例：モンゴル・デーなど）
〇〇日本語学校 大学進学相談	〇年〇月〇日～ 〇年〇月〇日	日本国内の大学に進学を希望する留学生に対する相談と指導
〇〇大学〇〇センター 海外留学支援	〇年〇月〇日～ 〇年〇月〇日	日本人学生の海外留学支援と指導（事前と事後指導）
〇〇県〇〇市国際交流協会 国際交流イベント運営	〇年〇月〇日～ 〇年〇月〇日	〇〇市の国際交流協会でのボランティア活動。地域に住む外国人と住民が参加するイベントの企画と運営
〇〇株式会社 海外渉外部門	〇年〇月〇日～ 〇年〇月〇日	海外の現地工場と本社との連絡業務、現地社員の指導